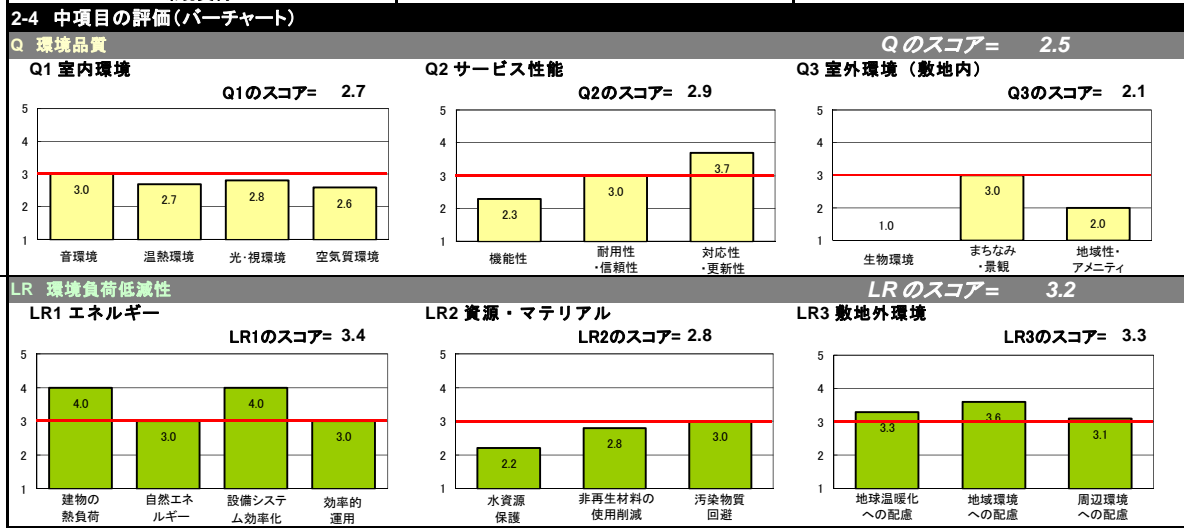
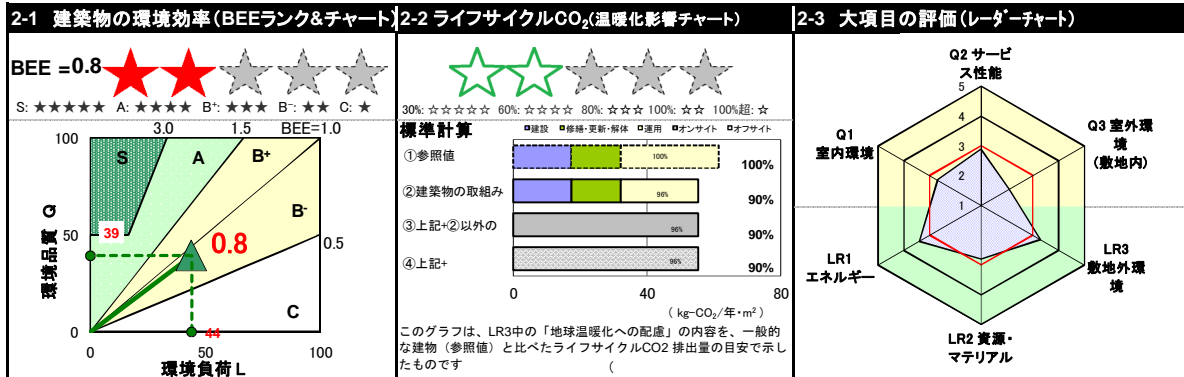


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(株)アステック豊明IC工場	階数	地上2F
建設地	豊明市栄町梶田97番1	構造	S造
用途地域	調整地域	平均居住人員	60人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	260時間/年
建物用途	事務所・工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年6月 予定	評価の実施日	2015年2月4日
敷地面積	2,794.41 m <sup>2</sup>	作成者	有我高司
建築面積	1,131.39 m <sup>2</sup>	確認日	2015年2月4日
延床面積	2,169.89 m <sup>2</sup>	確認者	有我高司



3 重点項目	
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em;">3.3</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em;">1.0</p> <p>外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">5.1 %</p> <p>建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em;">3.0</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em;">1.0</p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
 LR-3 1 地球温暖化への配慮  
 ②資源の有効活用  
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減  
 ③敷地内の緑化  
 Q-3 1 生物環境の保全と創出  
 ④地域材の活用  
 Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} (\text{建築面積及び附属物面積})}$  × 100

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積} (\text{法定面積})}$  × 100



スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	県独自基準	重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>2.5</b>
<b>Q1 室内環境</b>								<b>2.7</b>
<b>1 音環境</b>								<b>3.0</b>
<b>1.1 騒音</b>								
1				3.0	0.15	-	-	
1				3.0	0.40	-	-	
1				3.0	1.00	3.0	-	
2				-	-	-	-	
<b>1.2 遮音</b>								
1				3.0	0.40	-	-	
1				3.0	0.60	3.0	-	
2				3.0	0.40	3.0	-	
3				3.0	-	3.0	-	
4				3.0	-	3.0	-	
<b>1.3 吸音</b>								
				3.0	0.20	3.0	-	
<b>2 温熱環境</b>								<b>2.7</b>
<b>2.1 室温制御</b>								
				2.7	0.35	-	-	
				3.3	0.50	-	-	
1				3.0	0.38	3.0	-	
2				-	-	-	-	
3				3.0	0.25	3.0	-	
4			ゾーンごとにパッケージエアコン取り付け	4.0	0.38	-	-	
5				-	-	-	-	
6				-	-	-	-	
7				-	-	-	-	
8				-	-	-	-	
<b>2.2 湿度制御</b>								
				1.0	0.20	3.0	-	
<b>2.3 空調方式</b>								
				3.0	0.30	3.0	-	
<b>3 光・視環境</b>								<b>2.8</b>
<b>3.1 昼光利用</b>								
				2.8	0.25	-	-	
				2.4	0.30	-	-	
1				2.0	0.60	3.0	-	
2				-	-	3.0	-	
3				3.0	0.40	3.0	-	
<b>3.2 グレア対策</b>								
				3.0	0.30	-	-	
1				-	-	-	-	
2				3.0	1.00	3.0	-	
3				-	-	-	-	
<b>3.3 照度</b>								
				3.0	0.15	3.0	-	
<b>3.4 照明制御</b>								
				3.0	0.25	3.0	-	
<b>4 空気質環境</b>								<b>2.6</b>
<b>4.1 発生源対策</b>								
				2.6	0.25	-	-	
				3.0	0.50	-	-	
1				3.0	1.00	3.0	-	
2				-	-	-	-	
3				-	-	-	-	
4				-	-	-	-	
<b>4.2 換気</b>								
				3.0	0.30	-	-	
1				3.0	0.33	3.0	-	
2				3.0	0.33	3.0	-	
3				3.0	0.33	3.0	-	
4				-	-	-	-	
<b>4.3 運用管理</b>								
				1.0	0.20	-	-	
1				1.0	0.50	-	-	
2				1.0	0.50	-	-	
<b>Q2 サービス性能</b>								<b>2.9</b>
<b>1 機能性</b>								<b>2.3</b>
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>								
				2.3	0.40	-	-	
				2.3	0.40	-	-	
1				3.0	0.33	3.0	-	
2				3.0	0.33	3.0	-	
3				1.0	0.33	-	-	
<b>1.2 心理性・快適性</b>								
				1.6	0.30	-	-	
1				3.0	0.33	3.0	-	
2				1.0	0.33	-	-	
3				1.0	0.33	-	-	
<b>1.3 維持管理</b>								
				3.0	0.30	-	-	
1				3.0	0.50	-	-	
2				3.0	0.50	-	-	
3				-	-	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>								<b>3.0</b>
<b>2.1 耐震・免震</b>								
				3.0	0.31	-	-	
				3.0	0.48	-	-	
1				3.0	0.80	-	-	
2				3.0	0.20	-	-	
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>								
				3.0	0.33	-	-	
1				3.0	0.23	-	-	
2			②	3.0	0.23	-	-	
3				3.0	0.09	-	-	
4				3.0	0.08	-	-	
5				3.0	0.15	-	-	
6				3.0	0.23	-	-	

2.4 信頼性				3.0	0.19	-	-	-
1 空調・換気設備				3.0	0.20	-	-	-
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20	-	-	-
3 電気設備				3.0	0.20	-	-	-
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-	-
5 通信・情報設備				3.0	0.20	-	-	-
3 対応性・更新性				3.7	0.29	-	-	3.7
3.1 空間のゆとり				3.4	0.31	-	-	-
1 階高のゆとり				3.0	0.60	3.0	-	-
2 空間の形状・自由さ				4.0	0.40	3.0	-	-
3.2 荷重のゆとり				5.0	0.31	3.0	-	-
3.3 設備の更新性				3.0	0.38	-	-	-
1 空調配管の更新性				3.0	0.17	-	-	-
2 給排水管の更新性				3.0	0.17	-	-	-
3 電気配線の更新性				3.0	0.11	-	-	-
4 通信配線の更新性				3.0	0.11	-	-	-
5 設備機器の更新性				3.0	0.22	-	-	-
6 バックアップスペース				3.0	0.22	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.38	-	-	2.1
1 生物環境の保全と創出	●	③		1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮	●	④		3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.0	0.30	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	●	④		2.0	0.50	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50	-	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.2
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.4
1 建物の熱負荷抑制			断熱性能を向上	4.0	0.06	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.27	-	-	3.0
2.1 自然エネルギーの直接利用				3.0	0.50	-	-	-
2.2 自然エネルギーの変換利用				3.0	0.50	-	-	-
3 設備システムの高効率化			LED照明器具使用	4.0	0.40	-	-	4.0
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)				4.0	-	-	-	-
集合住宅の評価				3.0	-	-	-	-
4 効率的運用				3.0	0.27	-	-	3.0
4.1 モニタリング				3.0	0.50	-	-	-
4.2 運用管理体制				3.0	0.50	-	-	-
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	2.8
1 水資源保護				2.2	0.15	-	-	2.2
1.1 節水				1.0	0.40	-	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-	-
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67	-	-	-
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33	-	-	-
2 非再生性資源の使用量削減				2.8	0.63	-	-	2.8
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07	-	-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.20	-	-	-
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用	●	②	再生骨材の路盤材利用:アスファルト下路盤材	3.0	0.20	-	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.05	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組	●			3.0	0.24	-	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.22	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			有害物質を含まない材料の使用	3.0	0.32	-	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.68	-	-	-
1 消火剤				-	-	-	-	-
2 発泡剤(断熱材等)				-	-	-	-	-
3 冷媒				3.0	1.00	-	-	-
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮			① 断熱・LED照明使用	3.3	0.33	-	-	3.3
2 地域環境への配慮				3.6	0.33	-	-	3.6
2.1 大気汚染防止			汚染物質排出無	5.0	0.25	-	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50	-	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.7	0.25	-	-	-
1 雨水排水負荷低減	●		雨水用貯留槽設置	4.0	0.25	-	-	-
2 汚水処理負荷抑制	●			3.0	0.25	-	-	-
3 交通負荷抑制	●		駐輪場・バイク置き場・駐車場の確保	5.0	0.25	-	-	-
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	-
3 周辺環境への配慮				3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	-
1 騒音	●			3.0	0.33	-	-	-
2 振動	●			3.0	0.33	-	-	-
3 悪臭				3.0	0.33	-	-	-
3.2 風害・砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40	-	-	-
1 風害の抑制				3.0	0.70	-	-	-
2 砂塵の抑制				3.0	-	-	-	-
3 日照障害の抑制				3.0	0.30	-	-	-
3.3 光害の抑制				3.7	0.20	-	-	-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			適切な照度レベル、照明効率の高いLED照明の採用	4.0	0.70	-	-	-
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30	-	-	-

**重点項目スコアシート**  
(株)アステック豊明IC工場

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEEあいち評価マニュアル2011年度

■評価ソフト:

CASBEE-NCb\_2011 (bpi & bei) v.1.7\_aichi

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.3</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.3	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>3.0</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.7	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.8	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>1.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.11	
<b>④ 地域材の活用</b>				<b>1.0</b>
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア=  $\frac{\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}}{\text{重みの総和}}$

④地域材の活用

計画上の配慮事項	
総合	<p>注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。</p> <p>今回の計画は、調整地域ではあるが、豊明インターチェンジに近く、工場製品の配送には適した場所である。外周道路側はフェンス等を無くし、植栽等を配置し、周辺環境に溶け込むように配慮し自動車の導線計画・駐車場確保に努めている。室内的には、従業員の執務環境を快適に保ち、設備等のメンテナンス性も考慮して、建物の断熱性能等も含め省エネ性にも寄与した計画となっている。</p>
Q1 室内環境	<p>注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>通路・トイレ・事務所・設計スペースには、低汚染で空気環境の良くなる素材を採用して、ゾーンごとの細かい温度制御ができるパッケージエアコンを採用して執務環境を快適にしている。</p>
Q2 サービス性能	<p>注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>設備配管・配線を容易にメンテナンス出来るシステムを採用して、取替時に設備を簡単に交換できるような構造にしている。</p>
Q3 室外環境(敷地内)	<p>注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>室外環境については、敷地西・北側に緑地を配置して環境に配慮している。また、周りには住居少ないが、建物の高さを10m以下に抑え、北側敷地を広く開け通風・彩光に配慮した計画にしている。</p>
LR1 エネルギー	<p>注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>建物に使われる照明器具は、全て使用エネルギーの少ないLEDとしている。空調機は、最新の省エネ機種を採用している。また、建物全体外皮は、断熱を図りかつ遮熱シートを施している。</p>
LR2 資源・マテリアル	<p>注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>敷地内での雨水処理は、全体で最大雨量の1/2を貯留できるように配慮している。その中で浸透アスファルトの碎石に再生路盤を採用している。</p>
LR3 敷地外環境	<p>注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>敷地内での雨水処理は、全体で最大雨量の全てを貯留できるように配慮している。その中で浸透アスファルトの碎石に再生路盤を採用している。</p>
その他	<p>注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p>

